

# 愛知県内 妊婦らのワクチン接種

## 16日から「間に合わぬ」

21. 11. 13 朝日

妊婦と持病を持つ子どもを対象に、愛知県が16日から開始する予定だった新型インフルエンザのワクチンの優先接種が、県内の多くの医療機関で予定通りには始められないことが12日、明らかになった。医療機関が希望するワクチンの種類と国が供給した種類が合わないなど、配布作業に手間取っているためだ。県は日程調整の見通しが甘かったことを認め、謝罪した。

(岡崎明子)

## 「防腐剤なし」足りず

県は2日までに優先接種対象者のワクチン必要量をとりまとめ、約3200の医療機関から、妊婦用約6万7千人分、小児用約9万8千人分が必要との回答を得た。ワクチンの配布リストを、10日までに卸売業者6社でつくる組合に渡した。

だが、医療機関の希望と配布リストには、大きな隔たりがあった。

新型インフルのワクチンには、容器別に「0・5」「1」



新型インフルエンザ・ワクチンの10ミリットル瓶(右)と1ミリットル瓶(中央)。0・5ミリットル・タイプはあらかじめ注射器に充填されている(左の注射器にはワクチンが入っていない)

「10」ミリットル入りの3種類ある。このうち、妊婦については、0・5ミリットル入

りの希望が5万人分以上を占めた。このタイプは大人1回当たりの接種量0・5ミリットルに合わせてあらかじめ注射器に充填されていて、防腐剤が入っていない点が好まれ

「しかし今回、国から県に供給された0・5ミリットルタイプはわずか1万6千人分。一方で、ほとんど希望がなかった10ミリットル瓶が、約4万5千人分も供給された。国は大容量の方が効率よく

生産できるとして、9月に10ミリットル瓶の導入を決めた。しかし、1容器で18回分の接種量に当たり、いったん開封すると24時間以内に使い切らなければならないなど、使い勝手が悪い。

愛知県尾張旭市のある診療所は、約1500人分のワクチンが必要と試算。16日にはすでに25人分の接種予約が入っている。今週に入っても配布見通しの連絡がなく、県に問い合わせると「配分作業は卸売組合に任せている。ただ、間に合わないかもしれないので、16日の接種は延期してほしい」という回答だった。

診療所の担当者は「県の要請に忠実に対応したのに、いつ届くか見通しも立たないなんて。しかも、10ミリットル瓶はいらないと聞いたのに、納入予定では3本も含まれるといわれた」と憤る。

県健康対策課によると、過去の医療従事者へのワクチン接種例から、リストを渡せばすぐ配布できると見込んでいたという。しかしワクチンの種類や本数が多く、6社の調整が予想以上に手間取ったと認める。配布は13日から始めるが、配り終えるのは20日ごろになりそうだという。

「16日以降に予約を入れていの方は、各医療機関に問い合わせしてほしい。予約を入れたのに当日に接種できない方

### 接種予約殺到

岐 阜

1歳〜小学3年生を対象に新型インフルエンザのワクチン接種の予約が始まった岐阜県では12日朝、医療機関への電話が殺到し、一時、県内全域で固定電話がつながりにく

には、申し訳なく思う。今後、こういうことがないようになりたい」と話す。

## 医師総出 必死の防戦

### 感染増える春日井

愛知県内でも特に流行が集中している春日井市では、現場医師へのアンケートや情報提供で危機感を共有し、看護師にも休日夜間診療の協力を得るなど独自の工夫で、診療態勢の破綻を防いでいる。

春日井地区は定点観測による患者数が週ごとに増え、今月2〜8日の週の医療機関当

たりの患者数は147・89人と県平均の3倍近くに上る。休日と平日夜間の診療を担う春日井市健康管理センターは、市医師会の協力を得て医師を増員する対策を取った。

9月ごろから随時、応援の医師を呼んできたが、10月下旬から、これまで1人態勢だった土日の夜間を2人にした。

看護師も3人から5人に増やした。この結果、長い時には約3時間かかっていた待ち時間が、半分ほどに短縮された。医師を増やす上で、医師会が現場の医師たちにアンケートをした。9月下旬、内科系医師に賛否を聞いた結果、賛成が62・7%、反対が33・3%だった。小児救急へのリス

新型インフルどう対応 13

「咳エチケット」を啓発する車内放送を鉄道各社にお願いが今月、朝日新聞の投書欄「声」に載った。都会の勤め人には、混雑した通勤電車内での新型インフルエンザ感染が気になる。専門家によれば、くしゃみなどで飛び散ったウイルスによる感染が主で、空気中を漂い続けるウイルスなどによる空気感染